

メッセージアウトライン

コリント人への手紙 第一1:1～8「コリントにある神の教会」

[1-2]「神のみこころによってキリスト・イエスの使徒として召されたパウロと、兄弟ソステネから、コリントにある神の教会へ。すなわち、私たちの主イエス・キリストの御名を、至る所で呼び求めているすべての人々とともに、聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた方々へ。主は私たちの主であるとともに、そのすべての人々の主です」

コリントはギリシヤの南部にある町でアテネより約70キロメートルほど南西に位置する。西側からはコリント湾が東側からはサロス湾が深く陸地に食い込んでおり、ギリシヤの南北を結びつけているその部分は幅6キロメートルほどしかなく、そこにコリントの町があった。人口は約10万人。このような地理的条件からコリントは商業、貿易の一大中心地として大いに栄えていた。しかしもう一つの面としては、そこにはあらゆる人種、文化が入り組んでおり、邪悪で不道德な生活が蔓延していた。このような町にパウロは第2回伝道旅行の時に約1年半ほどじっくり腰を据えて伝道し、困難の中で教会を設立した。→使徒18:1～18 パウロは今、第3回伝道旅行の途中、エペソでこの手紙を書いている。→Iコリント16:7～8 ここでパウロは自分のことを「キリスト・イエスの使徒として召された」と言う。自分からではなく、人からでもなく、神によって使徒として召されたと書き出し、この手紙は、その神の権威のもとに読まれ受け入れられるべきことを感じ取らせる。ソステネは使徒18:17の会堂管理者と思われる。兄弟とは主にある兄弟の意味。パウロはコリントの教会とは言わず、「コリントにある神の教会」と呼びかける。いかにさまざまな問題を抱えているとしても、そこにあるのは神が立てられ、神ご自身が贖われた神の教会なのである。そしてそこにいるのは聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なるものとされた人々なのである。さらに神の教会はコリントだけではなく、私たちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めている人々とともにあり、主はそのようなすべての人々の主である。

[3]「私たちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安があなたがたの上にありますように」 パウロはここで彼らの上に恵みと平安を願うあいさつを送る。この「恵み」は神から人に対する豊かな働きかけであり、また賜物のことを指す。「平安」は無事で穏やかというだけではなく、神の祝福に満ちた充実した状態のことを指す。

[4]「私は、キリスト・イエスにあってあなたがたに与えられた神の恵みのゆえに、あなたがたのことをいつも神に感謝しています」 彼らは様々な問題を抱かえていたが、彼らが今どのような状態にあったとしても、なお彼らに与えられた神の恵みのゆえにパウロは感謝する。

[5]「というのは、あなたがたは、ことばといい、知識といい、すべてにおいて、キリストにあって豊かな者とされたからです」 この「ことば」とは福音に関することばの意。「知識」とは伝えられた福音の理解や洞察を意味している。

[6-7]「それは、キリストについてのあかしが、あなたがたの中で確かになったからで、その結果、あなたがたはどんな賜物にも欠けるところがなく、また、熱心に私たちの主

イエス・キリストの現れを待っています」

「キリストについてのあかし」とはパウロがコリントにおいて宣べ伝えた福音のこと。そして今やそれはコリントの教会の中で確かなものになっている。その結果としてコリント教会はどんな賜物にも欠けるところがないものとされた。「賜物」は原語のギリシヤ語でカリスマ。4節の「恵み」もこのことば。人が持っている才能や技術も神からの賜物。コリント教会にはこのような豊かな能力を持っている人々が多くいたのであろう。しかし、教会は賜物を豊かに持って自己満足するのではなく、その思いは、「熱心に私たちの主イエス・キリストの現れを待つ」すなわち、再び来ようとしておられるイエス・キリストにその目と思いをいつも向けていなければならないのである。パウロはコリント教会のこの姿勢のゆえにも神に感謝している。

[8]「主も、あなたがたを、私たちの主イエス・キリストの日に責められるところのない者として、最後まで堅く保ってくださいます」

コリント教会は神ご自身の力強い働きによって、再び主イエス・キリストの来られるその日において責められるところのないように最後まで堅く保ち導いてくださる。これがパウロの確信である。この神の真実、神の恵みのゆえに私たちが心から神を賛美し感謝したい。